

# 千の風になつて

登場人物

保夫  
緒美  
沙理  
葬儀屋

(父)  
(長女)  
(次女)

舞台奥には小さなテーブルに骨壺と戒名、そしてお鈴(りん)

ゆりかごから。

え？

ゆりかごから墓場まで。

突然なに？老いてから、社会福祉に目覚めたか？いや、前に芝居のセリフで聞いたなあって。

芝居？

そう、何だつけなあ、あれ。

何処で見たの

理沙登場、話に割り込む

卷之三

そう、今は、亡き・・・（泣きそうになる）

泣かないでよ。

泣いてない・・・そこで観た、ばかりさん出るやつ、なんて芝居だ

理沙 エキスボ。

ああ・・・奥さんの葬式に、香典泥棒のはばかりさんが出てくるのね。ゆりかごから墓場までなんて台詞あつたつけ？

あつた。

確か、葬儀屋がさ。

どうだつけ？そんな事よりもうすぐ来るわよ。

本物の葬儀屋さん

支那の歴史

(ため息・・・) 何、しよぼくれ。て

しほくれるくらいなら、もとお母さん大事にしてあげてたらよかつたのに

あとの祭りだね。（チーン・・・と、お鈴（りん）を鳴らす理沙）

溜息つく保夫・・・一呼吸おいてピンポンとチャイムが鳴る。

はーい。  
(出て行く)

お父さん、しつかりしてよ。

なにが。

美緒  
理沙  
保夫  
理沙  
理沙

保夫 そりやあまあ（ご）によ（ご）によ）・・・  
理沙 酔っぱらつてそのまま寝たりとか・・・  
保夫 ん・・・

理沙 お風呂のスイッチつけっぱなしとか・・・  
保夫 あく・・・  
理沙 さつきもトイレの電気つけっぱなし・・・  
保夫 いちいちうるさいんだよ・・・  
理沙 （ちよつと大きな声）心配してるんでしょ！

#### 葬儀屋と美穂入って来る

葬儀屋 （大きな声に少し驚き）こ、こんにちは・・・すいません、お取込み中でしたか  
美穂 どうしたの、大きな声出して  
理沙 あ、いいえ、大丈夫です。すいません、いろいろお世話になつて  
葬儀屋 いえ・・・あの、早速なんですが、明日の散骨の確認を  
美穂 はい、よろしくお願ひします。  
葬儀屋 ええと、船に乗られるのはご主人様とご長女の美穂様で変更ございませんでしょうか。  
美穂 はい、大丈夫です。  
理沙 あの、追加料金払つても、もう一人、乗ることできないんですね。

葬儀屋

はい、申し訳ありません、明日はもう定員いっぱいです・・・

理沙

いいえ、いいんです、ちょっと聞いてみただけです。

美穂

最近は、散骨つて流行つてゐるのかしらね。

葬儀屋

そういうこともあります、明日は本当に、たまたま5組ギリギリのご乗船予定で。

保夫

だったらおまえたち、一人で行つてくれればいいさ。

美穂

何言つてのお父さん、お父さんが行かなくてどうするの。

理沙

そうだよ、ほんとうの、最後のお別れなんだから。

保夫

なんかさ、海に、こう投げるわけだろ・・・サアうつて撒くのかと思つてたんだけど、

そしたら、紙に包んで海に沈めるっていうじやないか。

理沙

今更・・・

葬儀屋

粉骨したご遺骨を、そのまま撒くのも違法ではないのですが、いろいろとグレーな部分が

ありまして、水に溶ける紙に包んで撒くようにしてます。

保夫

真つ暗な海の底でさ、沈んだままになるんですね。

葬儀屋

まあ、そうですが・・・

理沙

全ては、一緒になるんだよ海底で、いろんな分子がくつたり離れたりして、この世界は

できてるんだから。

美穂

考えてみれば本当に、自然に帰るつてことなんでしょうね。

保夫

あの、葬儀屋さん。

葬儀屋

はい。

保夫 キヤンセルできますか？

葬儀屋 はい？

理沙 お父さん！

美穂 何言つてるの。

保夫 キヤンセル

理沙 子供か！

葬儀屋 葬儀屋さん困つてるじやない。

葬儀屋 いえ、大丈夫です。実はけつこういるんですよ、迷われるご遺族の方。  
美穂 すいません。

葬儀屋 いえいえ、ほんとに・・・でも、もう前日なのでご料金が・・・

美穂 あ、大丈夫です、予定通りで。

葬儀屋 だいたい、最初に散骨にするつて言いだしたのお父さんなんだからね。

保夫 それは、母さんの遺言だから。

理沙 お母さん、海が好きだつたから。

理沙 それより何より、お金ないからね、うち。

美穂 まあね、現実的に、お墓買えないから。

理沙 それ考えて遺言を書いたんだよ、お母さん。

保夫 すいませんね、甲斐性なしで。

美穂 そういうこと言つてるんじゃないでしょ。

理沙

美穂

理沙

美穂

理沙

美穂

理沙

理沙

理沙

葬儀屋

美穂

保夫

理沙

美穂

理沙

美穂

葬儀屋

保夫

葬儀屋

そうだよ、最初は私たちが反対してたのに。

遺言だからって、お母さんの望みをかなえてあげるんだって、お父さん。

お通夜の晩から、毎晩口ずさんで。

そうよ。

(歌う) 私のお墓の前で、泣かないでください、そこに、私はいません  
いくら遺言だからって、こういうことは残された私たちの気持ちの方が大事なんじやないかって  
反対したのに。

聞く耳持たなかつたから、この頑固親父。

お墓じやなくとも、最近は納骨堂つて流行つてるんですね。

IC式の納骨堂ですね、費用も100万円くらいで。

そう、それ、それなら何とかできると思つたけど。

なんだい、あんなマンションみたいなの。

確かにね、ICカード入れると立体駐車場みたいに遺骨が運ばれてくるんでしょ、味気ないよね。

味気ないって・・・供養でしょ。

供養のし甲斐が無い。

供養にやりがいとか関係ないでしょ。

まあ、都会は土地が高いですし、核家族ばかりですから。

どうして、墓地つてあんなに高いんですか？

私に聞かれましても・・・

保夫

葬儀屋さんのせいじやないです、すいません。でも、これじや、夜の墓場で運動会するのは金持ちばかりですよ。

それ妖怪。運動会するのは幽霊じやなくて妖怪です。幽霊と妖怪は違うから。どつちだつていいんだ。言いたいことは、死んだ後も格差社会つてこと。

格差社会は、墓場も奪う。  
地獄の沙汰も金次第。

保夫 ならば少し、こちらに回しておくんなせい。

理沙 回せそうで、回しきれない、だから生まれる、格差社会。

**保夫** うちなんか、どんどんお金回しているのにさ。

理沙 それ、貯めるお金が無いから、回してるように見えるだけ。

美穂 デフレの時代に、お墓の値段って、少しは下がったのかしら。

理沙  
いや、下がつてないんじやない。

どうして死んでからもこんなにお金かかるんでしょうね。（皆、葬儀屋を見る）

葬儀屋

美穂  
いえ、すみません。お気になさらず。

理沙  
世の中需要と供給、核家族が増えて、老齢社会になれば墓の値段も高くなるって

お父さん6男坊の末っ子だからね、あたしも、理沙も嫁いじゃつたし。

理沙  
核家族の典型だわね、ねえ、お父さんは、死んだときはどうしてほしいの?

今聞くか？！それ。

穗理沙！

失礼しました。

葬儀屋 あの、それで明日のことなんですかけど・・・

キヤンセルしようかな。

まだ言うか！

お父さん、もうキャンセル料じゃなくて料金まるまる取られるのよ。

払うつて、それあたしたちが出したお金。

分割で返す。

何言つてんだか、年金暮らしが。

そうよ、それも国民年金だけなんだから、暮らすのもままならないって。いつも愚痴こぼしてるの誰ですか。

四  
二

まつたく、ぬけぬけとどの口が言つてゐるんだか

それ、親にパワハラ。

お父さん！

(葬儀屋さんに) すいません、お見苦しいとこ・・・

葬儀屋いえ、大丈夫です。よくあるんですよ、こういうの。まだこちらは良い方で。

美穂 そうなんですか？

葬儀屋 はい、遺産相続の話にぶつかったときなんか、そりやあもつ。

理沙 それは大丈夫。うちには無いからね。

保夫 この家と土地がある。

理沙 12坪で築32年、よほよほの猫の、額つてどりね。

保夫 狹くたつて持ち家。

美穂 ほんと、親子4人よく暮らしたね。

保夫 引っ越してきた時は、まだお前たち小学生で、新築の家にずいぶん喜んでたじやないか。

美穂 あのころは小さかつたからね。

理沙 身体が小さいと周りが大きく見えるの。

葬儀屋 いや、でも「主人、この葉山に、一応、一戸建てですからすば」んですよ。

理沙 一応ね、一応・・・

葬儀屋 あ、いえ、そういう意味じゃ・・・すいません。

理沙 いいのいいの、ホントのことなんだから。

美穂 理沙は学校卒業すると、すぐ出て行つたもんね。

理沙 だつて狭いんだもん。会社の寮あつたしね。

葬儀屋 でもうちなんか、マンションですから、いろいろ大変ですよ自治金や管理費や。

美穂 そういう点では、32年前の選択は正しかったのかもね。

理沙 だけどもう、ボロボロよ、この掘つ立て小屋。

保夫　掘つ立て小屋はないだろ。

でも、良いですよ、庭があつて。

葬儀屋　庭つたつて、マンションのベランダより狭いし。

理沙　葬儀屋さん、骨を、自分の土地に埋めちやいけないんですかね。

保夫　はい、私も詳しくないんですけど、法律がそうなつてているんです。でもほら、葬儀屋さん、骨を、自分の土地に埋めちやいけないんですかね。

大丈夫だつたとしても、やつぱり隣人とのトラブルとか、もし家を売るときとか、いろいろ問題あるんじやないでしようか。

美穂　そうよ、お父さん、散骨つて決めたのは、お父さんなんだから。

保夫　違う、遺言、母さんの。

理沙　まだ、そういうこと言つて。

美穂　母さんは千の風になつたんだつて歌つてたのは誰。

理沙　そうそう、お墓に入れたつて、そこに母さんはいませんつて。

保夫　でも、海の底に沈めるとは知らなかつたんだ・・・。

さくつて撒いて、海流に乗ればさ、その小さな粒は太平洋を漂つて、風のように、

地球上のいろんなところに飛んでいけそうな気がするじやないか、だけど・・・。

海の底だぞ、海の底、藻屑になつちやうなんて、なんかさ・・・。

少しの沈黙・・・

美穂 葬儀屋さん、明日の集合は、葉芝漁港に9時でしたっけ。

葬儀屋 え、ええ、そうです。えっと、それで、これ、明日のご案内と予定表です。天気予報は、ほぼ大丈夫なんんですけど、なにぶん海のことなので、万が一出向できない時は

延期になる場合があることをご了承ください。その場合の費用は掛かりませんので

ご安心ください。あとは、お忘れ物の無いよう、もう一度ご案内の資料をご確認お願いします。

美穂 はい。お世話になります。

葬儀屋 では、乗船名簿には、ご主人様と美穂様のお名前を書いておきます。

美穂 よろしくお願ひします。

保夫 おい、美穂・・・

理沙 お父さん。（たしなめる）

それで、もし、行けないときは、朝電話しますので、その時は他の方のご迷惑にならないように、時間になつたら出航しちやつて下さい。

葬儀屋 ・・・

美穂 それじや、よろしくお願ひします。

葬儀屋 はい、では明日。港でお待ちしてます。

(終わり)